



トラック、バス、タクシー業界から出席

# 事業者 に指導強化促す

## 東運局 運行管理や安全教育

【宮城】東北運輸局は2日、自動車事故防止セミナーを開いた。ドライバーの意識喪失や健康起因による重大事故に加え、飲酒運転などの悪質な法令違反が後を絶たないことから、事業者に対して運行管理や安全教育の指導強化を促すのが目的。トラック、バス、タクシーの経営者と管理者ら220人が出席した。

尾関良夫局長は「昨年は全国の交通事故死者数が4千人を下回った。また、ここ数年は東北管内での事業用自動車による死傷者数も減少傾向にある。しかし、2016年1月の軽井沢スキーツアーバス事故などの大惨事も起きている。特に、ドライバーの健康起因による事故も多く、職場や業界挙げての安全運転への取り組み強化が必要だ」と運行管理と安全指導を徹底するよう求めた。

セミナーでは、国土交通省自動車局安全政策課の森本正司・事故防止対策推進官とNPO（非営利組織）ヘルスケアネットワークの作本貞子副理事長、NPOアスクの鬼生田顕英・飲酒運転防止上級インストラクターがそれぞれ「事故防止対策の強化」「健康管理の徹底」「飲酒運転の根絶」をテーマに講演した。

この中で、作本氏は睡眠時無呼吸症候群（SAS）やドライバーの高齢化などで事故を引き起こす危険性が高まっていることを指摘。事故防止に向けて健康診断結果を活用した勤務指導や運行スケジュール作成など、運行管理マニュアルへの取り組み強化を呼び掛けた。

また、鬼生田氏は、アルコール摂取量と単位数（1単位＝ビール500ミリリットル相当）の計算方法及び体内でのアルコール分解処理時間などの事例を挙げて説明。アルコールに対する正確な知識を習得し、自身の体質と適切な飲酒量を知ることの重要性を説いた。

（富田久男）